

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	13-102	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and cognitive decline in early old age. 初老期における飲酒量と認知機能の関係について		
<b>執筆者</b>		
Sabia S, Elbaz A, Britton A, Bell S, Dugravot A, Shipley M, Kivimaki M, Singh-Manoux A		
<b>掲載誌</b>		
Neurology. 2014 Jan 28;82(4):332-9. doi: 10.1212/WNL.0000000000000063.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
認知機能、アルコール、コホート研究		24431298
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 中年期の飲酒と将来の認知機能低下の関連を検討することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> Whitehall II コホート研究から、初回の認知機能検査時の年齢が平均 56(44-69)歳であった男性 5,054 名、女性 2,099 名のデータを用いた。初回の認知機能検査 (1997-1999 年) から 10 年間に 3 回の飲酒量調査を行った。認知機能検査は 2002-2004 年、2007-2009 年に繰り返し行った。認知機能検査は記憶力と実行機能についての 4 種類のテストからなり、それらを統合した <b>global cognitive score(GCS)</b>を指標として用いた。飲酒量と認知機能低下の関連は、線形混合モデルを用いて <b>z-score (mean=0, SD=1)</b>で表した。</p> <p><b>結果：</b> 男性では、非飲酒者、禁酒者、機会飲酒者、少量・中等量飲酒者(&lt;20g/d)の間に認知機能低下の差は見られなかった。しかし、大量飲酒者(36g/d 以上)はすべての認知機能の低下が速く、少量・中等量飲酒者(0.1-19.99g/d)と比較して 10 年後の機能低下は、GCS は-0.10 (95%CI -0.16, -0.04)、実行機能は-0.06 (-0.12, -0.00)、記憶力は-0.16 (-0.26, -0.05)であった。女性では、少量飲酒者(0.1-9.9g/d)と比較して、禁酒者で 10 年後の機能低下が速く、GCS は-0.21 (-0.37, -0.04)、実行機能は-0.17 (-0.32, -0.04)であった。</p> <p><b>結論：</b> 男性では大量飲酒者は、少量・中等量飲酒者に比べて認知機能の低下が速いことが示唆された。</p>		